

# れきし 散歩

市制施行10周年記念

## 第25回企画展「鈴鹿関」 ～第1部「鈴鹿関を通る」～

### はじめに

10月10日から歴史博物館で始まる第25回企画展「鈴鹿関」。本企画展は、2部構成でお届けします。第1部では「鈴鹿関を通る」と題し、鈴鹿関を通過した人や物に注目しながら、その実像に迫ります。

### 鈴鹿関を通過する書類たち

鈴鹿関は、古代国家が自らの防御施設として国内に3カ所のみ設けた非常に重要な拠点の1つでした。これらは律令三関と言われ、伊勢国鈴鹿関、美濃国不破関、越前国愛発関で構成されていました。

では、実際に鈴鹿関を通過した物を見ていきます。その代表に「計会帳」という書類があります。

各国の役所である国府は、1年間に授受した書類の一覧を中央官庁(太政官)へ提出します。中央官庁では、授受書類の遺漏の有無などの監査を実施します。その一覧を計会帳と言われ、伊勢国のものは「伊勢国計会帳」と呼びます。



東大寺古文書  
伊勢国計会帳  
(複製)

伊勢国計会帳からは、伊勢国に届く書類が、当時の都である平城京(現・奈良市)から伊賀国を通過して届けられ、また伊勢国からは尾張国へと届けていたことが分かります。つまりは各国を回覧する形でさまざまな書類の授受が行われていたのです。書類は官道である東海道を通過しており、伊勢国への出入国は、東海道上にあった鈴鹿関を通過していたと考えられます。

### 伊勢国計会帳

伊勢国計会帳には、百姓(一般人)への過所の発行が記録されています。過所とは通行許可証であり、名前、年齢、本籍地、通行する関、行き先の国名などを記入しています。過所が無くては関を通れないようにすることで、官人や民衆などの通行者の管理に努めていました。

さて、この伊勢国計会帳は、いつ作成されたのでしょうか。伊勢国計会帳に記された「大倭伊美吉生羽」という人物に注目してみます。彼は、平城京出土の木簡にも登場する官人です。天平8(736)年にこの木簡を再利用したこと、「大倭」という表記などから、天平8年10月までに作成されたと考えられます。

木簡の実物は、11月11日から23日まで、歴史博物館で展示しますので、ぜひご覧ください。

### 鈴鹿関のその後

国家にとって重要な拠点とされていた三関ですが、交通の利便性を阻害するとの理由により、延暦8(789)年に関の機能が停止されました。備えていた武器や食糧は国府へ、建物は郡へと移すよう命が下ります。そして鈴鹿関は、武器や食糧を伊勢国府へ、建物を鈴鹿郡衙へ移したと考えられます。

では、鈴鹿関は延暦8年を境に何もなくなるのでしょうか。その後の鈴鹿関について調べてみると、「固関」を継続していることが確認できます。固関は、謀反や天皇の死去など、国家の一大事に関の門を閉鎖させ、通行を禁止するものです。開閉は、木契という木の割札と朝廷からの使者の派遣によって行いました。宝永6(1709)年の東山天皇から中御門天皇への譲位時に作られた固関木契が現存しています(宮内庁書陵部)。また、残された記録類からも使者派遣の手順が分かっています。三関はその役割が停止された後も、重要な儀式の場としての位置づけを与えられ続けたのです。



固関木契  
(複製)

### さいごに

企画展「鈴鹿関」第1部「鈴鹿関を通る」は、12月6日まで開催しています。ありし日の鈴鹿関はどのようなものだったのか、展示室でご体感ください。

続く第2部「姿を現した鈴鹿関」は、来年1月4日から始まります。第2部では、10年間にも及ぶ発掘調査で出土した遺構・遺物を読み解きながら、鈴鹿関の実像に迫ります。第25回企画展「鈴鹿関」、第1部、第2部ともにぜひお楽しみください。